



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間〒共1100円

道標

04年10月10日～05年10月29日
「聖体の年」
【司教区昇格五十周年】
小教区が活性化し
教区が一つとなるように

みことばを追い続けて 小平卓保神父逝く



小平卓保神父

みことばの追求に生涯をかけたヨハネ・マリア・ピアンネ小平卓保神父(紫原教会)が、八月七日(日)午後十時四十三分、入院先の鹿兒島市の病院で急性肺炎のため帰天した。七十四歳だった。

聖書学者として「新カトリック大事典」や「聖書思想事典」などを手掛けた

神父が最期を迎えた「大徳内科」(谷山教会)に転院し、手厚い看護を受けていた。

を繰り返して悪いながらも執筆活動に精力的に取り組んでいた神父だったが、この春からの体調は優れず入院。六月には

羅針盤

レデンプトール会 ミュンヘン管区から、一九五八年、第三のグループとして鹿兒島に派遣された。鹿兒島教区は司教区に上げられて三年経った時だった。

一九六〇年、徳之島の亀津に着任。徳之島での四年間は非常に貴重な体験となった。暑い徳之島で汗かきの私に、同情のし



日本に来てからの思い出

長崎教区愛宕教会 M・ヴィデンマン

ッドと壁の間に丁度はまり込んだ。私の部屋は実に便利だった。横になって右を向くと、ご聖体は目の前に見え、ベッドの上には腰かけると、告白を受けるための椅子になった。

一九六四年、川内教会に着任。

た。しかし川内勤務の頂点は、後に司祭となった三人の神学生の誕生と二人のシスターの召し出した。一九七七年、十三年ぶりに長崎愛宕教会から谷山教会に任命された。谷山教会での十三年間

には様々な素晴らしい思い出がある。自主的に動く谷山教会は非常に好意的で前向きで開かれた小教区だった。心に残る出来事の一つとして、元、特攻隊の先生であった谷山教会の信者が、終りが近づいたと感じて、復活とマリアさまの詩を歌うよう願われた。私は大急ぎで教会で録音し、テープを届け、ご聖体を授けてから、いつものように手を握ろうとするのを彼は拒否して、復活とマリアさまのテープを聞きながら、息を引き取られた。何と羨ましい死に方か！四十七年間、日本で働かせていただいて、大勢の方々から愛がら

キリストこそ

わたしたちの希望

教区50周年記念式典

9月19日(月) 10時

鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂

(月)十九時から、葬儀と告別式は九日(火)十三時からいずれも鹿兒島カテドラルで執り行われた。

九日の葬儀ミサと告別式には、小平神父の人柄を示すように、信者、未信者を問わず三百五十人を超え

マリアの姿を辿り 平和の鐘運動にも参加

ザビエル祭

鹿兒島が日本の教会を代表して記念し続けている「ザビエル上陸記念祭」(今年で三十一回目)が、中旬間の最終日に当たる八月十五日(月)午前十時から

ザビエルが上陸した稲荷川河口付近に近い祇園之州公園ザビエル上陸記念碑前広場で開かれた。教区各地から集まった三百五十人余りの信者たちは、ザビエルの偉業を称えるとともに、聖母被昇天を記念した。

また、ガリラヤから「ザビエルと日本の初代教会」にした古果神父は「聖母の被昇天祭に日本に上陸したザビエルと日本人の心の原風景にはマリアの姿がある。マリアを通してザビエルがもたらしたカトリックの信仰を辿ろう」と参加者にメッセージをおくった。

恒例の夏期集中講座が八月二十二日(月)から二十六日(金)までザビエル教会一階ホールであった。今年「マタイ福音書への問いかけ」について、約八十人の受講者が講師の竹山昭神父から学習した。

終戦記念日にも当たったこの日、ミサ後には、ユネスコ協会が呼びかけた「平和の鐘を鳴らそう運動」にこたえ、西本願寺鹿兒島別院や日本キリスト教団加治屋町教会と共に、宗派を超えた「平和の鐘」を会場から鳴らし平和を祈った。

注文受付始まる

鹿兒島教区報縮刷版

教区では司教区創立五十周年記念事業として、教区史にとって資料価値の高い「鹿兒島カトリック教区報」(一九六二年創刊号から二〇〇四年十二月号)の縮刷版(A四判)を今年九月中旬発行することにし

この縮刷版(一部四冊)は、希望者にも配布することになっている。一般配布予定数は百五十部で、希望者には縮刷版発行協力特別献金をお願いする予定。問合せは教区本部まで(☎〇九九―二二六―五一〇)

神学養成講座へ参加

信仰養成委員会から提案され、参加が呼びかけられた信徒養成プログラムの一環「神学養成講座」(福岡サン・スルピス大神学院)が八月二十五日から九月三日まであり、鹿兒島教区から十五人の信徒が受講した。参加者は次の通り。

ティエン(教区神学生)、平敬司、貴島丈弥、松本五十鈴、森島美江(聖心教会)、久保正子(小宿教会)、宮口かつえ(浦上教会)、山田敏子、柳正子(ザビエル教会)、永山千寿(鴨池教会)、久保俊弘(谷山教会)、橋本嘉奈子(吉野教会)、川口茂(加世田教会)、郡山勇久保直基(始良教会)。敬称略。会場には個人的に参加した教区からの信徒の姿も見られた。

終身助祭および信徒奉仕者の養成

司教区の新しい船出のために

鹿兒島司教 糸 永 真 一

わたしたちは、今年、司教区昇格五十周年を記念し、「キリストこそわたしたちの希望」(一テモテ一の1)を合言葉に、聖体を通してわたしたちとともに

おられる主への信頼をもって、いま新しい船出をします。

ところで、教会は信仰共同体です。キリストへの信仰と洗礼によって一つに結ばれた仲間です。そして

共同体には奉仕者(牧者)が必要です。かつて「牧者のいない羊の群れを見て、哀れに思われた」(マタイ9の36)主は、教会創立に

当たっては教会に牧者を立ててくださったました。そこ

で牧者たち(司教・司祭)は、教区レベルでも小教区レベルでも、助祭をはじめ

多くの信徒奉仕者に助けられて人々の多様な霊的必要性にこたえてきたのです。

これは今日も同じです。そればかりか、世俗化が進み、個人主義が広がり、価値観が多様化する現代においては、奉仕者の質と数は

いつにもまして重要になりました。こうした中で行われた教区の一連の話合い

や検討作業の結果、二つの奉仕職の養成が課題として意識されてきました。終身助祭の導入と信徒奉仕者の新たな養成です。

【身分】「聖職階級の下位の段階に助祭があり、司祭職のためではなく、奉仕のために」

【任務】「所轄権限所持者からの指定の範囲内において、助祭は次の務めを行う。すなわち、荘厳に洗礼式を執行し、聖体を保管し、分け与え、教会の名において婚姻に立会い、祝福し、死の近くにある者に聖体を運び、

信者たちのために聖書を朗読し、人々に教えを告げ、信徒の祭礼と祈りを司会し、準秘跡を授け、葬儀と埋葬を司式する。」

は終身助祭の身分と任務について次のように述べています。

【身分】「聖職階級の下位の段階に助祭があり、司祭職のためではなく、奉仕のために」

【任務】「所轄権限所持者からの指定の範囲内において、助祭は次の務めを行う。すなわち、荘厳に洗礼式を執行し、聖体を保管し、分け与え、教会の名において婚姻に立会い、祝福し、死の近くにある者に聖体を運び、

信者たちのために聖書を朗読し、人々に教えを告げ、信徒の祭礼と祈りを司会し、準秘跡を授け、葬儀と埋葬を司式する。」

ここに述べられているように、終身助祭はこれらの任務の中から、司教が指定した範囲内で、専任またはパートで特定の任務を担当することになります。

②教区はすでに終身助祭制を導入することを決

め、その先駆けとして、高齢ではありますが二人の信徒に終身助祭への道を開き、司教区五十周年の記念ミサでその叙階を行うことにしています。鴨池教会でその実績を示している「カテキスタ」の桃園淳一郎さんと、教区の委託を受けて「教誨師」を務めている谷山教会の久保俊弘さんです。

終身助祭の候補者の選抜と養成は「教区終身助祭養成委員会」(委員長竹山

第二バチカン公会議後、司祭職への下級段階として選任されていた四つの役割のうちの一つ、すなわち宣

教奉仕者(以前は誨師、現在は朗読奉仕者ともいう)と教会奉仕者(以前は侍祭、

召神父)が担当することに

なっており、目下、準備作業が進行中です。少なくとも今年中には準備が完了し、候補者の募集と養成が始まることとなります。なお、非妻帯者の志願者は二十五歳以上、妻帯者の場合は三十五歳以上という年齢規程がありますが、多くの男性信者が、家庭や仕事の事情がゆるぎ限り、終身助祭として教会に奉仕してほしいと願っています。

「宣教奉仕者(朗読奉仕者)」は、神のことは告げる者という別名で呼ばれているように、教会の宣教活動に協力する任務を持ち、そのために神の民の中で特別な役割を与えられ、神のことはに基づく信仰の奉仕者に任じられるのです。すなわち、教会から福音宣教の務めを託されている司牧者の指導監督のもとに、宣教奉仕者は典礼集会で神のことばを朗読し、子供や大人に教理を教え、秘跡にあずかる準備をさせ、キリストの教えを知らない人々に、救いの神秘を宣べ伝えます。」

(自発教令「ミニステリア・クエダム」一九七二)。教区はいま、教皇様の意思を汲み、小教区活性化の担い手として「宣教奉仕者」と「教会奉仕者」を導入し実施することになりました。

②宣教奉仕者の任務

宣教奉仕者の任務は、選任儀式書によると次のとおりです。

「宣教奉仕者(朗読奉仕者)」は、神のことは告げる者という別名で呼ばれているように、教会の宣教活動に協力する任務を持ち、そのために神の

民の中で特別な役割を与えられ、神のことはに基づく信仰の奉仕者に任じられるのです。すなわち、

教会から福音宣教の務めを託されている司牧者の指導監督のもとに、宣教奉仕者は典礼集会で神のことばを朗読し、子供や大人に教理を教え、秘跡にあずかる準備をさせ、

キリストの教えを知らない人々に、救いの神秘を宣べ伝えます。」

宣教奉仕者の養成は「教区終身助祭養成委員会」(委員長竹山

第二バチカン公会議後、司祭職への下級段階として選任されていた四つの役割のうちの一つ、すなわち宣

教奉仕者(以前は誨師、現在は朗読奉仕者ともいう)と教会奉仕者(以前は侍祭、

召神父)が担当することに

なっており、目下、準備作業が進行中です。少なくとも今年中には準備が完了し、候補者の募集と養成が始まることとなります。なお、非妻帯者の志願者は二十五歳以上、妻帯者の場合は三十五歳以上という年齢規程がありますが、多くの男性信者が、家庭や仕事の事情がゆるぎ限り、終身助祭として教会に奉仕してほしいと願っています。

「宣教奉仕者(朗読奉仕者)」は、神のことは告げる者という別名で呼ばれているように、教会の宣教活動に協力する任務を持ち、そのために神の

民の中で特別な役割を与えられ、神のことはに基づく信仰の奉仕者に任じられるのです。すなわち、

教会から福音宣教の務めを託されている司牧者の指導監督のもとに、宣教奉仕者は典礼集会で神のことばを朗読し、子供や大人に教理を教え、秘跡にあずかる準備をさせ、キリストの教えを知らない人々に、救いの神秘を宣べ伝えます。」

教区における宣教奉仕者は、専任の宣教奉仕として奉仕する道ほかに、通常は、家庭を守り仕事に励む中で言葉と行いをもって宣教に努めながら、余暇を割いて、それぞれの教会活動の中で宣教奉仕者としての使命の一端を担うこととなります。

③すべての信徒リーダーを宣教奉仕者に

教区では、希望者を宣教奉仕者に選任するほか、指導的立場にあるすべての信徒の皆さん、すなわち、

班長、教会学校の信徒教師、幼稚園や学校の信徒教師、信徒の聖体奉仕者や種々の教会委員、レジオナリエ会員や各種信徒団体のリーダーの皆さんに、少し勉強して

いただいて、宣教奉仕者に任命したいと考えています。なぜなら、これらの皆さんは、すでに宣教者としての特別な使命が負わされているからであり、

世俗化や価値観の多様化など複雑になった現代生活の中で、信仰に基づく確かな識別と奉仕ができるよう、より高い教理的

知識と実践的な使命感が求められているからです。

④宣教奉仕者の養成

宣教奉仕者の養成は「教区信仰養成委員会」が担当し、委員である永山幸弘神父が直接の責任者に委嘱されています。現在、宣教奉仕者の養成コースをま

とめ中であり、司教区五十周年記念ミサ後に司祭団を通して公表され、十月からそのコースが本土地区や奄美地区で開始される予定です。上記に示した信徒リーダーたちはもちろんのこと、多くの信徒有志が養成コースに参加し、宣教奉仕者としてキリストの愛に燃えて欲しいと期待しています。

⑤教会奉仕者の養成

先に述べたように、教区は教会奉仕者(祭壇奉仕者)の養成と選任も意図しています。この奉仕職は男性の宣教奉仕者の中から適任者を選んで選任することにしたと思います。従って、今回の信徒奉仕者の養成は宣教奉仕者に集中して行います。

三、小教区に

宣教委員会新設へ

互愛を実践することです。小教区には現在「小教区司牧評議会」があつて小教区の運営に当たっています。が、残念ながら小教区の通

常の運営と行事が協議の中心となり、宣教活動にはなかなか手が及ばない現状があります。

そこで、終身助祭や宣教奉仕者の養成があらためて始まるのを機に、信者の信仰養成を含め、宣教活動を具体的に取り扱う「宣教委員会」を各小教区に設置していきたいと思ひます。



野宿者のためにシャワー室を設置

夜回り活動続けるザビエル教会

ザビエル教会(永山幸弘主任司祭)では、司祭用車庫のある教会横一角に野宿者のためにシャワー室を設置し、七月二十五日(月)祝別した。

これは昨年一月から野宿者のために毎週土曜日の夜、「一人ひとり神に愛された大切な存在。一日でも早く人々との交わりの中に戻ってきて欲しい」と願っている「ザビエル夜回り会」からの要望にこたえたもの。今年度、夜回り会支援を小教区目標に掲げているザビエル教会では、悪臭やひどい汚れのために銭湯に入れてもらえず、そのため職に就くこともできない

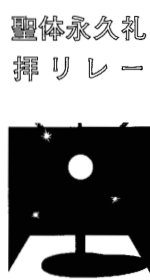
人たちが悪条件を一つでもクリアできるようにこのシャワー室設置に踏み切った。



設置されたシャワー室

円をかけて設置されたシャワー室は高さ二〇〇センチ、横一四〇センチ、奥行き八〇センチ。使用は現在のところ管理スタッフの都合もあり、毎週火曜日と土曜日の午後一時から午後四時まで、一人週一回とし、おにぎり配り時に予約を受け付けている。活動を続けるスタッフは「シャワー室利用の時は私達に

とつても触れ合いの時。土曜日の夜は三十人前後の方と交わるため、なかなか一人ひとりとは話せない。でもシャワーで体を洗うと心も軽くなるのか、いろいろ分かち合ってくれる。時間をかけて話すとその人が背負っているものが見えてくる。祈りのうちに共にありたいと願っている」と語ってくれた。



小教区報発行へ

— 溝辺教会 —

9月4日(日)

溝辺教会(松森孝郎神父)は、教区宣教百周年記念事業の一つ「祈り」を実現するために一九九三年建てられた。「マリア山荘」の愛称で親しまれ、年間四百人を超える人が黙想や研修に利用している。信徒数九人。

支えてくれている「聖血礼拝修道女会ヨゼフ修道院」は、教会とは別に聖体永久礼拝を実施するため、僅かな信徒での聖体礼拝の実施となる。

9月11日(日) 大口教会(レヒナ神父・レデンブートル会)。信徒数一六三。レデンブートル会のヤロシユ神父が出水から巡回に来た一九五六年が教会の始まりとされる。教会堂が建てら



会葬御礼

故ヨハネ・マリア・ピアンネ小平卓保神父の死去に際しましては、教区民の皆さまのお祈りを賜わり、葬儀にも多くの方々にご会葬並びにご鄭重なるご弔詞を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

尚、故人の生前中に頂きました数々のご協力に對しまして、深く感謝申し上げます。

平成十七年八月十日 鹿児島教区長 糸 永 真 一

カテドラルで平和の集い

平和旬間初日の八月六日(土)、ザビエル教会では公開討論形式の「平和の集い」が開催された。



「平和を愛する人へ」と呼びかけられたこの集いは、鹿児島

を小教区報によって深めたいという。初聖体が九人も

れたのはその二年後の十二月のこと。戦時中に奄美大島からこの地に疎開してきた信者たちの願いが叶う形での教会堂完成となった。

大口教会の宣教活動に欠かせないのが大口明光学園とその経営母体カノッサ修道女会。一九五一年来鹿以来、教会と二人三脚で大口の地に福音の種を蒔く仕事を続けていた。

カトリック鹿児島教区教師の会(竹山昭願司祭)は、八月六日(土)ザビエル教会一階ホールで研修会を開いた。今回は信



カト幼稚園研修

七月二十一、二十二日恒例のカトリック幼稚園研修会が霧島で行われ、教区内の十七のカトリック幼稚園から百四十人の職員が参加した。テーマを「カトリック幼稚園の使命」として行われた糸永司教の講話では、「幼児教育は基礎的な人格形成の場。人間らしく生きる基礎を作り、どこに向かわせるか方向付けをする場だ。キリストに導かれたカトリック幼稚園特有の使命は、生きていく具体的な道しるべとなる良心を育てるため、園児に神を体験させ、神の愛を知らせ、神、隣人を愛し、人に愛される人間になる教育をすること。教師たちもキリストを自分のモデルとして園児達を導いていかなければならない」と話した。

翌日のミサの後、志布志幼稚園長郡山健次郎神父は「私たちのこの使命をより良く果たせるように、各園でも研修を重ねよう」と促した。

者以外の教師にも参加しやすいテーマを設定した。講話が中心の今回の研修に講師として招いたのは鹿児島女子短期大学講師田中秀明(臨床発達心理士)さんで、テーマは「学校現場で生きるカウンスリング」。思春期・青年期にある生徒たちの発達段階や心理学について概観したあと、学校現場で用いるカウンスリングについて、具体的な事例を交えて聞いた。

カトリック鹿児島教区教師の会(竹山昭願司祭)は、八月六日(土)ザビエル教会一階ホールで研修会を開いた。今回は信

9月

【十字架の使徒会祈りの意向】 小教区の活性化

- 4日(日) 年間第二十三主日
- 8日(木) 聖マリアの誕生
- 11日(日) 年間第二十四主日
- 12日(月) レデンブートル会例会
- 14日(水) 十字架祝賀
- 15日(木) 糸永真一司教叙階記念日(一九五二年)
- 18日(日) 教区の日(カテドラル献堂記念日)
- 19日(月) 年間第二十五主日
- 20日(火) 鹿児島教区五十周年記念式典・カテドラル・10時
- 20日(火) コンベントゥス・教区本部・10時
- 21日(水) 浜田盛茂神父霊名(マテオ)
- 23日(金) ヴィゴ神父叙階記念日(一九八二年)
- 25日(日) 年間第二十六主日

▼世界難民移住移動者の日(献金) 「世界難民移住移動者の日」は、各小教区とカトリック施設が、国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と「ともに生きる」決意を新たにしている日です。日本の教会でこの分野の活動を受け持つ日本カトリック難民移住移動者委員会は、日本と全世界にある協力グループとともに、活動の推進、連絡、協力、支援、情報の交流等を行っています。そのために祈りと献金がささげられます。おもな活動は次のとおりです。①滞在・在日外国人とともに、②定住難民や新難民とともに、③外国人船員や国際交通機関の乗務員とその家族とともに、④海外日本人・海外移住者(海外旅行者も含む)とともに、⑤海外日本人宣教師、外国人宣教師とともに。

10月

- 4日(火) サンタマリア神父叙階記念日(一九七〇年)
- 5日(水) 牧山田一神父叙階記念日(一九六一年)
- 27日(火) 有馬信茂神父叙階記念日(一九五九年)
- 29日(木) メニヒ神父叙階記念日(一九五九年)
- 29日(木) 木村敏彦神父霊名(聖ミカエル)

霧島音楽祭に参加して

ザビエル教会聖歌隊

泊 良子

ばいでした。

七月二十二日、ザビエル記念聖堂での霧島音楽祭への出演の話聞いて、今まで教会内行事での歌の参加は経験してききましたが、そのような音楽祭に聖歌隊が参加できるだろうか、初めは不安な気持ちでいっ

七月二十二日、ザビエル記念聖堂での霧島音楽祭への出演の話聞いて、今まで教会内行事での歌の参加は経験してききましたが、そのような音楽祭に聖歌隊が参加できるだろうか、初めは不安な気持ちでいっ



霧島音楽祭に向けて練習中の聖歌隊

土曜日の練習は毎日続けていますが、日曜日のミサ曲の練習が第一なので、音楽祭のことは次になってしま、本格的に練習を始めたのは三か月ぐらい前からでした。人数が少ないので一人でも参加者を増やすことや、またそれぞれ多忙の中で全員が揃って練習する機会も少なく、指導者の山下先生も気をもまれたことと思います。しかし周りの支えもあり、それに賭けるみんなの気持ち一つになり、当日は聖歌隊らしく精いつばいのことが

できたように思います。終わってみると聖歌隊員も少し増え、一つのことに向かつてお互い気持ちを合わせ努力することによって得たものは大きく、参加させてもらって良かったと思えます。

教会内だけの聖歌隊に留まらず、少し外へ向かう小さな一歩になればいいと思います。この機会を与えてくださった方々、支え励ましてくださった方々に、心から感謝いたします。

第5回九州青年キャンプ in 鹿児島

～ はじめ ～

日時：10月1日(土)～2日(日)
 1日(土) 13時 受付開始
 2日(日) 16時 解散予定
 内容：交流会、城山公園までの徒歩巡礼、ミサ
 場所：鹿児島カテドラル・ザビエル教会
 対象：18歳以上の青年男女
 申し込み締め切り：9月10日(必着)

問い合わせ・申し込み先

教区本部 (久保直基)

携帯 090-1363-7960

FAX 099-225-0440

e-mail kagoxavi-b@po5.synapse.ne.jp

ザビエルさまの散歩道 伊集院への道

ザビエル教会を右手に見て、山下小学校の前を通り、西田橋の方へと歩いて行く。JRの線路下をくぐり抜け、なおもまっすぐ。だんだんと小さな個人商店が並ぶちょっとした下町的な町並みに少しホッとすると同時に、道がだんだん狭くなるのに以外に車の多いことにびっくり。

左手の小さな神社を見上げながらさらに小さな道を進むと目の前にそり立つような坂が見えてくる。「みっかん坂」といわれる坂。この坂を額を汗を拭いながら上りきつて、武岡の住宅街を歩き始める頃には、急に爽やかな風が吹き始め、足取りも心なしか軽くなる。

道の両側から生い茂る涼しげな木々のトンネルをいくつも抜けながら、上り下りを繰り返している。狭かった道もいつの間にか広くなると、ちよつと広めの歩道が楽しい気分をさせてくれて、つつい鼻歌も。

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

出水 遠竹睦郎

立秋や庭辺に百舌の声聞けり

(評) 「声聞けり」がよい。

純心学園 山頭信子

屋久島のシドテイ碑「恋泊」

原爆忌嘆きつぐ声や蝉しぐれ

名瀬 松畑義弘

新聞にぼたりと落ちる玉の汗

純心学園 田村鏡子

夏服やおへそも清しかりかな

鹿児島 春山マリ子

健やかに飲む一杯の朝清水

鹿児島 徳永ノブ子

こころこめ平和の祈り原爆忌

(評) 「こころこめ」がよい。

鹿児島 本城 愛

竜胆の花の誘う道の駅

鹿児島 龍門司真人

きのこ雲語りつぐべし奈落雨

短歌 (思川短歌会作品)

純心学園 川上 和

かのこ百合清しく咲いて六十年原爆乙

女の思いも新た

(評) 原爆乙女の思いを「かのこ百合の花」に客観視させる深遠な佳作。

出水 遠竹睦郎

教皇の写真飾りし書齋にて今日も朝の祈り捧げぬ

古仁屋 豊島忠司

押入れにマリアの像を三日間隠せし罪を告解で謝す

鹿児島 田平新太郎

きびが哭くさわさわの声かなし平和をしめす母の声かも

鹿児島 前田儀子

音の影を落す白鷺

阿久根 中津濱フサエ

子供等と逢瀬の後の幸せをかみしめながらロザリオ操りぬ

鹿児島 春山マリ子

生きる道海空川と楽しけり自然美し

すず花よ花よ

名瀬 林 明子

さざ波とイルカの友よ夏がきたまたあえるね瑠璃色の海で

ときがすぎ今日もおわりかんしゃし夕やけを見る夕やけを見る

(評) 澄み切った作者が浮かぶ佳作。

鹿児島 田平新太郎

きびが哭くさわさわの声かなし平和をしめす母の声かも

鹿児島 田平新太郎

きびが哭くさわさわの声かなし平和をしめす母の声かも

きびが哭くさわさわの声かなし平和をしめす母の声かも

<KABAYAN SEKSIYON> "Huwag kang Papatay"

Ang ikalimang kautusan na tatalakayin ko ay ang "Huwag kang Papatay". Ang buhay ng tawo ay banal, dahil sa simula pa lang, kasama ng paglikha ng Diyos at ito'y mananatili magpakailanman sa isang mahalagang relasyon kasama ng Maylikha na siya ang katapusan ng lahat. Ang Diyos lang ang Panginoon ng buhay mula pa sa simula at hanggang sa katapusan. Kaya walang sinumang taong pwedeng mag-angkin ng buhay o sumira sa isang inosenteng tao. Sinabi ng Panginoon "narinig na ninyo na sinabi sa inyong mga ninuno: Huwag kang papatay, ang sinumang pumatay ay lilitisin. Sinasabi ko naman sa inyo: Ang sinumang magalit sa kanyang kapatid ay lilitisin."

Itinuturo sa atin ng ika-limang kautusan na "Huwag kang papatay" ng isang taong inosente at matuwid. Ang pagpatay sa taong inosente at matuwid ay isang malaking kasalan kontra sa dangal ng tao, sa gintong alituntunin at sa kabanalan ng may likha.

Halimbawa, ibinagbabawal ang pagpalaglag ng bata habang nasa sinapupunan pa. Ito'y kontra sa kautusan ng Diyos at malaking kasalan (mortal na kasalanan). Kailangan ang buhay ng tao ay igalang at pahalagahan sa panahon ng pagbubuntis. Sa simula pa lang ng buhay ng tao ay kailangan kilalanin na siya na may karapatan bilang tao. Sinasabi sa libro ni Propeta Jeremias, "Bago pa kita hinubog sa sinapupunan, kilala na kita, bago ka pa isinilang, ibi nukod na kita". Ang Diyos, ang Panginoon ng buhay ay ipinagkatiwala sa tao ang marangal na misyon ng pagbantay sa kaligtasan ng buhay at kailangan dalhin ng tao ng may karapatdapat sa kanilang sarili. Kailangan na pahalagahan ang buhay ng tao habang ipinagbubuntis pa lang: ang paglaglag ng bata habang nasa tiyan pa ay isang malaking kasalanan sa mata ng Diyos. Ang buhay ng tao ay regalo na bigay ng Diyos kaya huwag nating ilagay sa ating mga kamay ang pagkitil ng buhay ng tao, lalung-lalo na iyong mga nasa sinapupunan pa.

スピリチュアル研修会

日時：10月15・16日
 講師：キッペス神父
 場所：ウェルサンピア鹿児島
 研修費：10,000円
 奥村 (TEL.099-282-2926)
 福沢 (TEL.0997-56-6167)

週刊カトリック新聞

1部本体価格 150円 (税・送料別)
 購読料金 (前納、税・送料込)
 半年 4740円・1年 9480円

見本紙贈呈いたします

へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
 TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com